

詳細は、大学ホームページ、学生募集要項をご覧ください。

■教職実践専攻[教職大学院]募集人員ならびに選抜方法

コース	人数	検査科目
ミドルリーダー養成コース	8名程度	学力検査として「口述試験(入学希望等調書及び教育実践概要の記載内容に関する審査を含む)」を課す
教育実践開発コース	8名程度	学力検査として「筆記試験」「口述試験(模擬授業を含む)」を課す

■学位の名称

教職修士(専門職)(Master of Education)

■今後の予定

〈第1期募集〉

- 出願期間 …… 平成28年10月31日(月)～11月4日(金)
- 入学試験 …… 平成28年11月26日(土)
- 合格発表 …… 平成28年12月 6日(火)

〈第2期募集〉

- 出願期間 …… 平成29年1月16日(月)～1月20日(金)
- 入学試験 …… 平成29年2月 4日(土)
- 合格発表 …… 平成29年2月14日(火)

■取得できる免許状

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状(各教科)
- 高等学校教諭専修免許状(各教科)
- 養護教諭専修免許状

■学費

- 入学金 …… 282,000円※
- 授業料 …… 535,800円(年額)

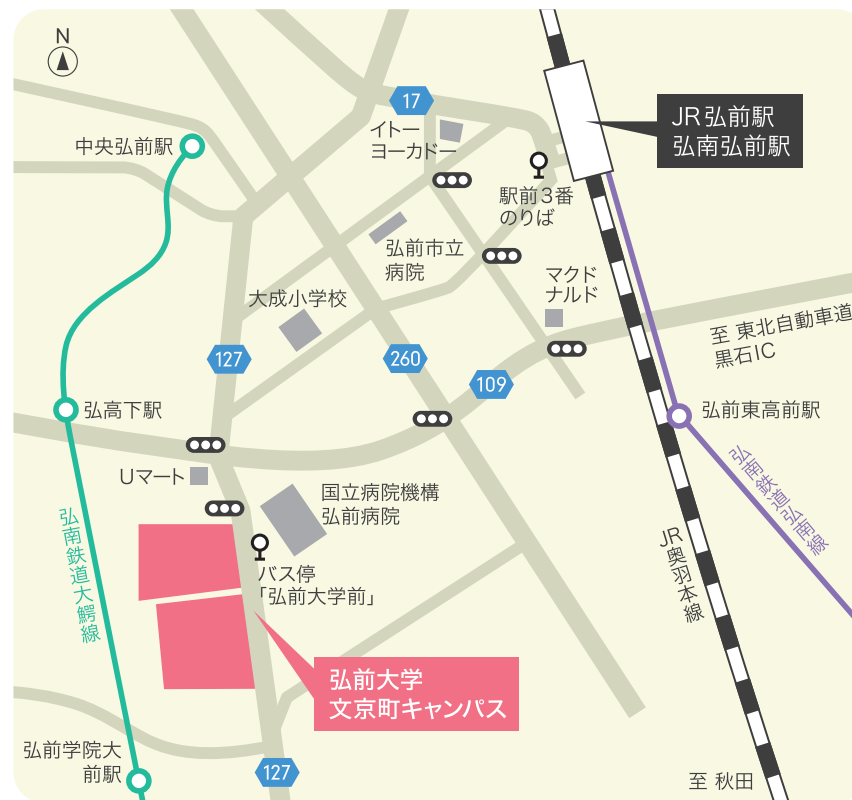
※一定の条件を満たした学部新卒学生及び現職教員学生を対象とした、給付型の奨学金制度があります。

ACCESS MAP

JR弘前駅からのアクセス

- (1)徒歩:約20分
- (2)バス:約10分
駅前3番のりば乗車、弘前大学前下車
- (3)タクシー:約5分

※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。



国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 弘前市文京町1番地 Tel.0172-36-2111(代表)

<http://www.hirosaki-u.ac.jp>

[連絡先] 担当:教育学部総務グループ Tel.0172-39-3314

平成29年4月 弘前大学大学院 教育学研究科に 教職実践専攻[教職大学院]が誕生します。

理論と実践との往還を
通じた省察をもとに、
青森県が直面する教育課題の
解決をめざした教育実践を創造し、
リードしていく教員を養成します。

設置コース

- ミドルリーダー養成コース
- 教育実践開発コース



HIROSAKI UNIVERSITY

課題

学校教育が直面する課題とは？

全国的には…

- ✓ 学習意欲の低さや自己肯定感の低さ
- ✓ 特別な教育的ニーズ、社会経済的困難を抱える子どもの増加
- ✓ 学力の格差、人間関係形成力や健康面の不安への対応

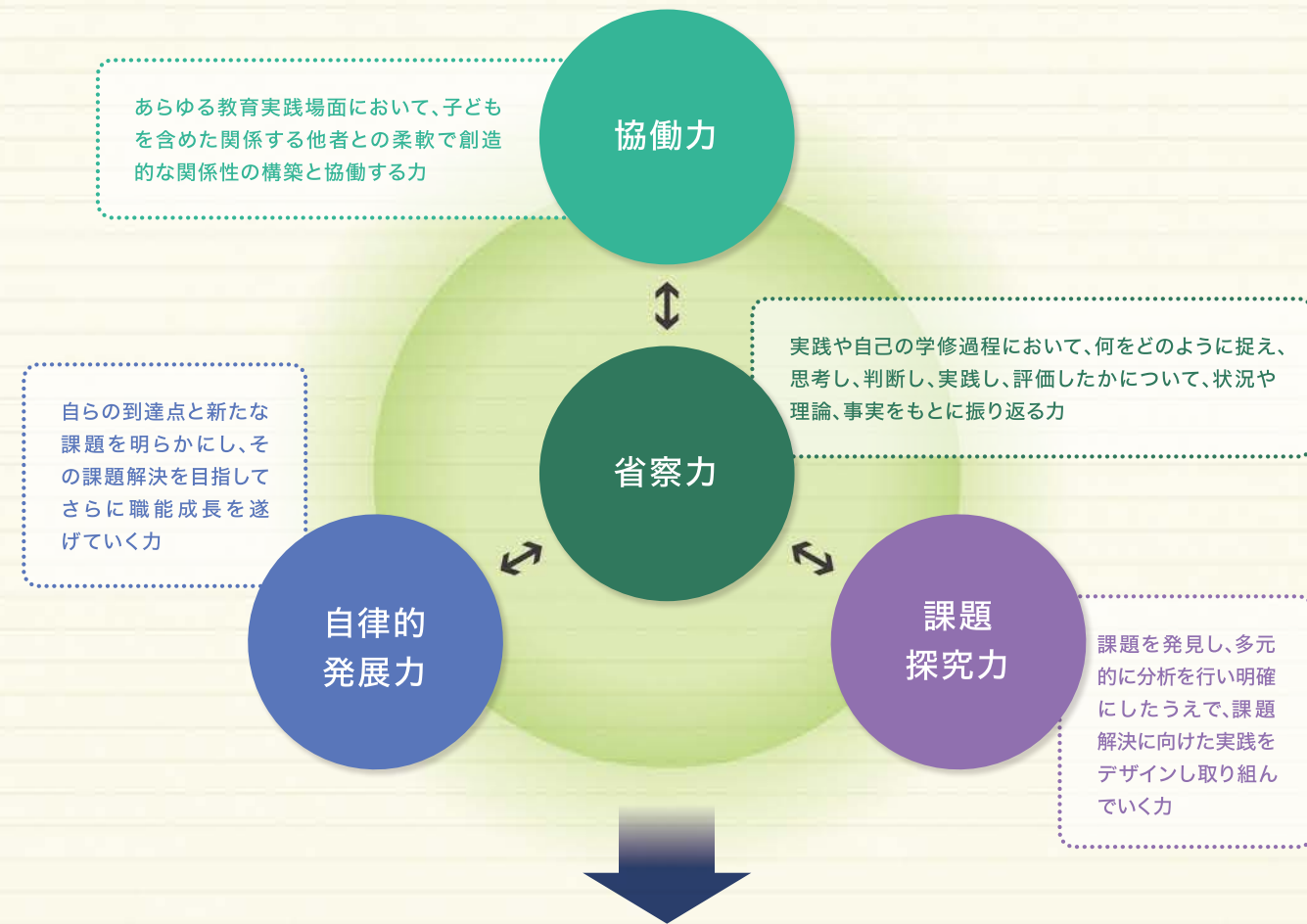
青森県では…

- ✓ 豊かな自然を活かした環境教育
- ✓ 短命県返上を念頭においた健康教育
- ✓ インクルーシブ教育の総合的な取り組み

いま、教員に求められる4つの力

いま、教員には、自らの到達点と課題を明らかにし、その課題の解決に取り組み、職能成長を遂げていくための**自律的発展力**が求められます。また、学校・社会状況が直面している教育的課題に対して、真の課題を明らかにし解決を試みる**課題探究力**が重要であり、その際、理論的支

えを持った根拠に基づき実践を行い、そこでの子どもの実態を踏まえて成果と課題を明らかにしていく**省察力**が求められます。また、課題探究や省察を多面的なものとするために、それらを教員集団として行っていく**協働力**が必要です。



教員に求められる高度な専門性を修得するための場、それが、教育学研究科教職実践専攻[教職大学院]です。そこには、教員に求められる4つの力を養成するカリキュラムが用意されています。

目的

■開設の目的

青森県が直面している教育課題に対して、理論と実践との往還・融合を通じた省察をもとに、学校内外の専門家と協働しながら、その解決に向けた教育実践を創造しリードしていく教員を養成します。

■設置コースと養成する教員像

コース	対象	教員像
ミドルリーダー養成コース	原則として青森県教育委員会が派遣予定の公立学校教員	校内研修、地域連携、教材開発などの課題に、他者と共に創造的に取り組むうえで中心となるミドルリーダー
教育実践開発コース	4年制大学を卒業もしくは3月末までに卒業見込みで、教員免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者	教育課題に対応するための理論と事実に基づいた確かな実践力・省察力を持つ若手教員

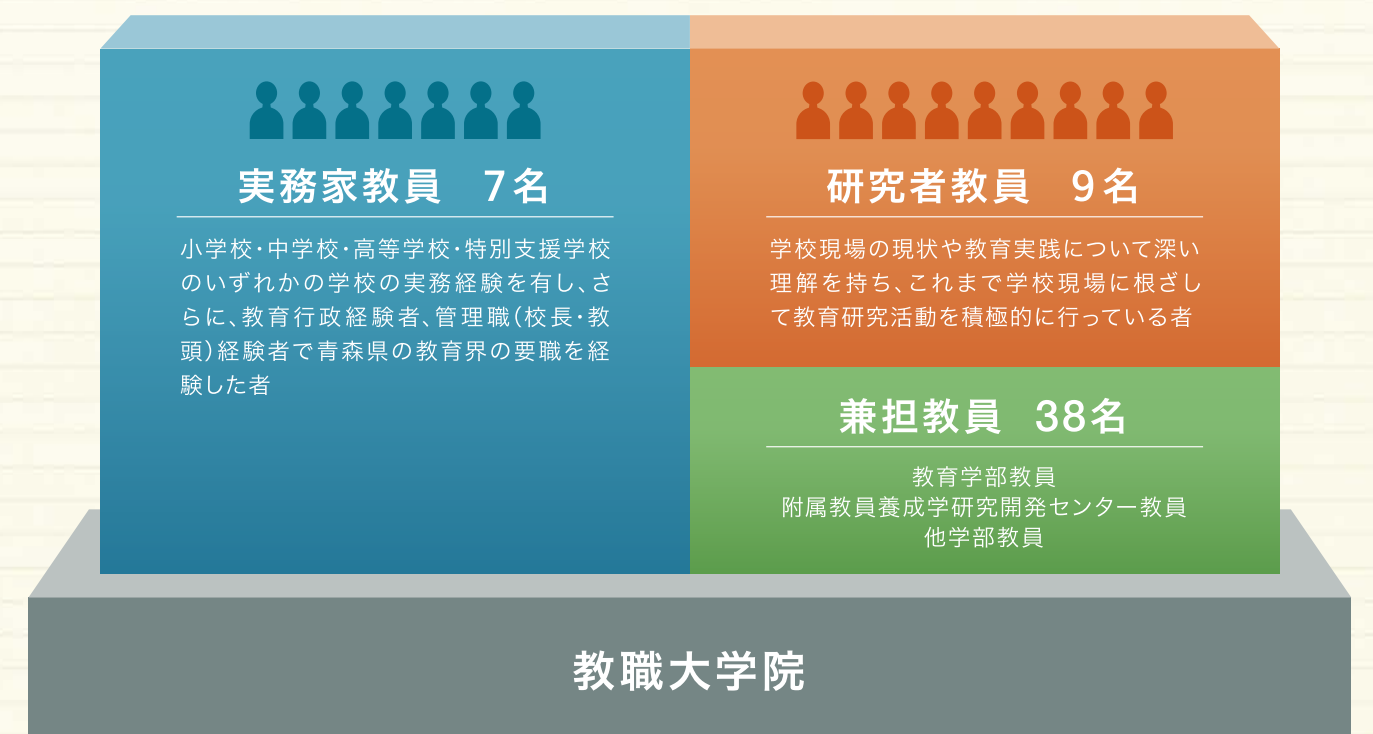
特色

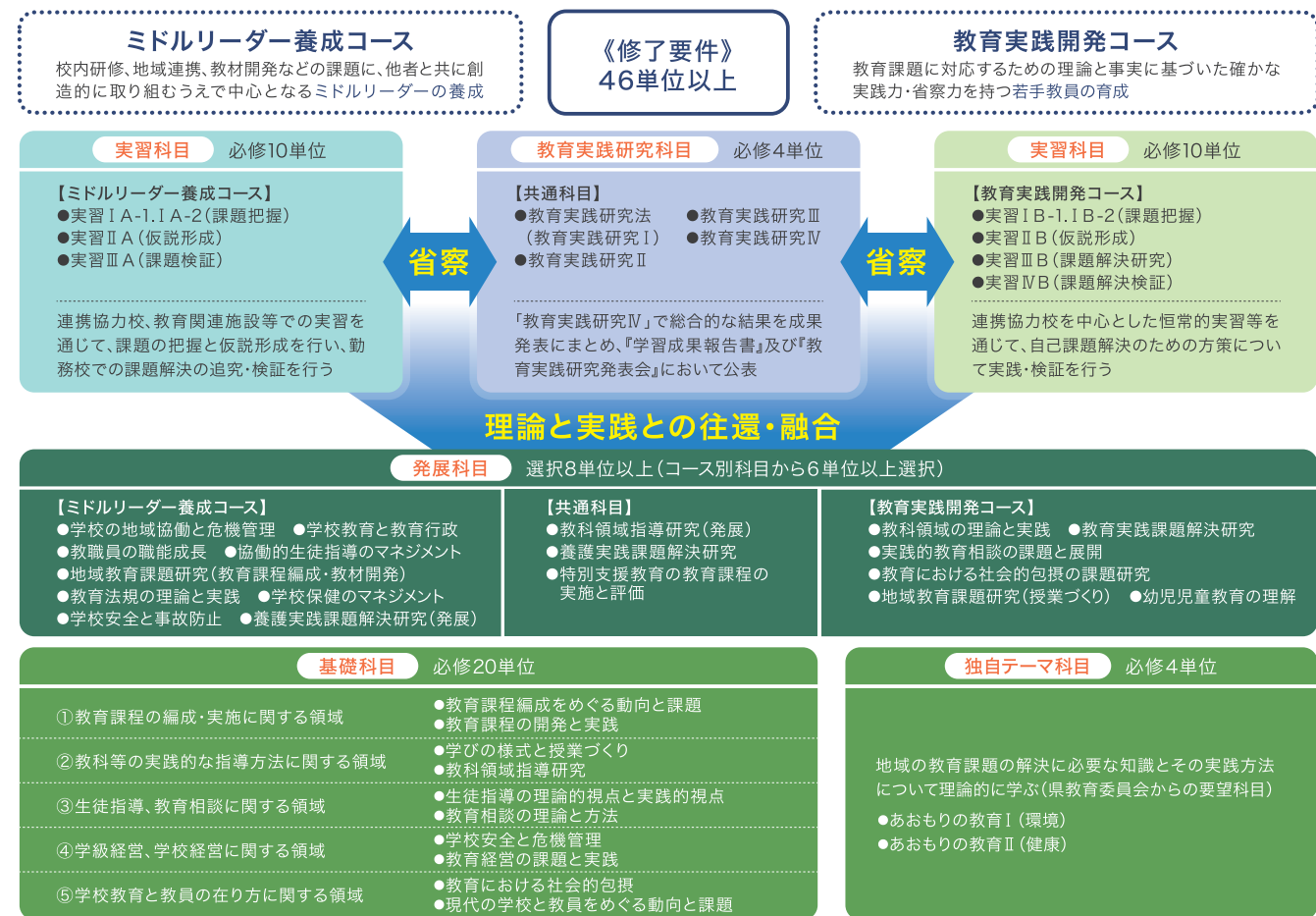
■教育課程等の特色

- 1 「基礎科目」「独自テーマ科目」「発展科目」「教育実践研究科目」「実習科目」からなる「理論と実践との往還・融合」を担保するカリキュラム編成
- 2 「独自テーマ科目」として、青森県教育委員会から要望のあった環境教育、健康教育の科目を開設
- 3 「教育実践研究科目」「実習科目」は、理論と実践との往還・融合をより確かなものにするものとして関連性を持たせ、附属学校園や連携協力校、現任教などでの実習を通して教育課題の追究・解決・検証を実践的に行う

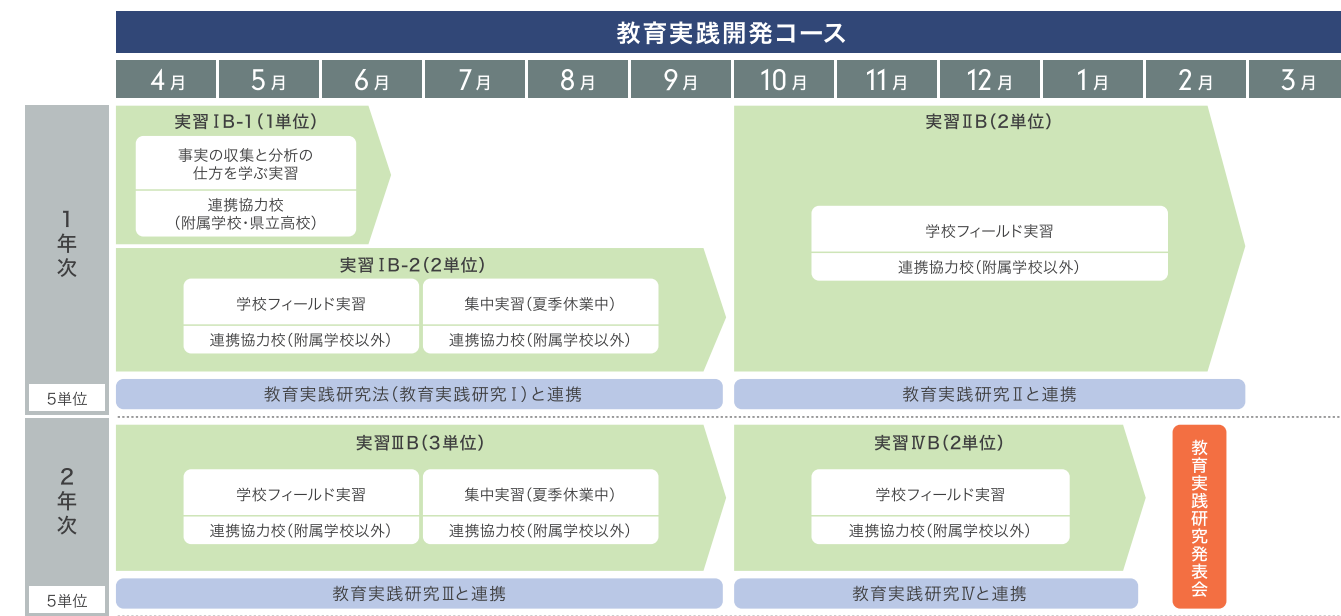
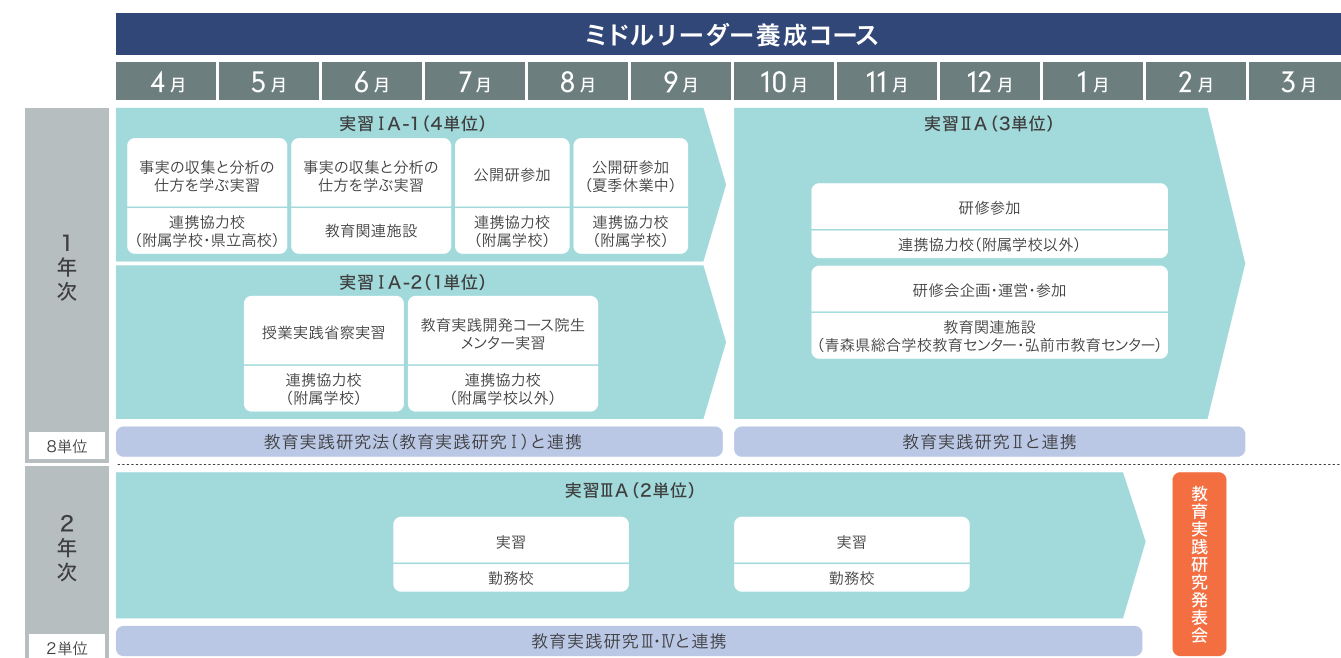
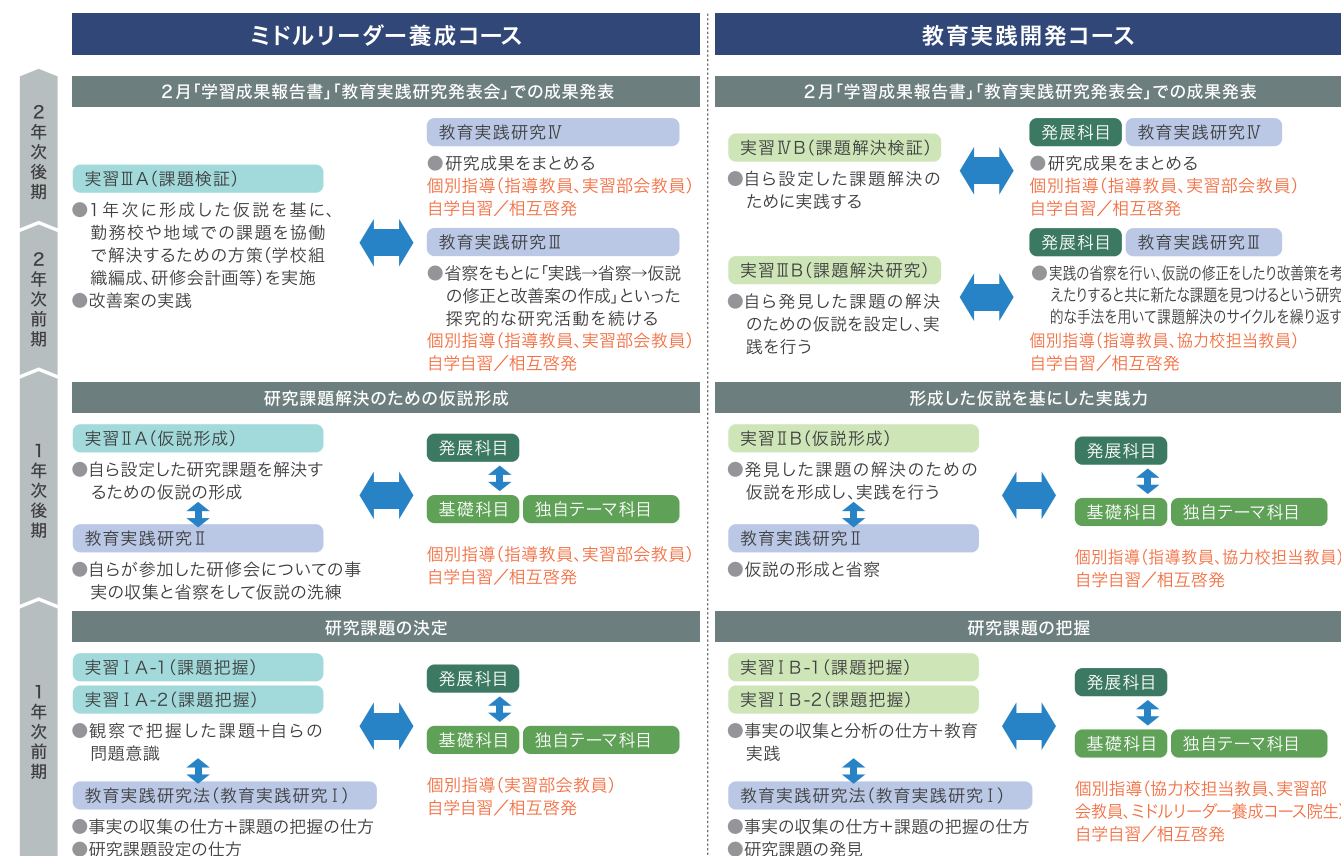
■16名の専任教員による充実した指導体制

教職実践専攻(教職大学院)では、入学定員と同数の16名の専任教員(9名が研究者教員、7名が実務家教員)を中心として、手厚い指導をおこなっていきます。この他、弘前大学教育学部・他学部教員からなる兼任教員38名を擁する充実した指導体制を整えています。





2年間の学び



教育実践力を身に付けたミドルリーダーの育成に向けて

弘前大学教職大学院の開設を心から歓迎するとともに、青森県の教育の充実・発展に向けた大きな推進力となるよう期待を抱いております。

県教育委員会では、教育施策の方針である「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を目指し、市町村教育委員会、学校、家庭、地域との連携を図りながら、いじめ防止対策や子どもの健康づくりの推進、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進、環境資源を活用した環境教育の推進等の課題に取り組んでいます。

これらの多岐にわたる一つ一つの課題に真摯に向き合い、その解決に向けて歩を進めていくためには、子どもたちの教育の直接の担い手である教員一人一人の資質能力及び実践的指導力の向上が、これまで以上に求められます。

このため、教員には教職に関する専門的知識とともに、学校で実際に起こりうる様々な事案や授業での課題等を踏まえた実践的な研修が必要であり、この度の教職大学院の開設は、このような教育現場の要望に応えていただいたものであります。

教職大学院では、本県の教育課題を重点的に学べる科目群の設置がなされるとともに、大学院生一人一人の研究課題に対応できる多数の指導教員が配置されるなど、本県の「学び続ける教員」のための支援体制を整えていただいております。

今後、教職大学院で学ぶ現職教員が、より高い教育実践力を身に付け、各学校のミドルリーダーとしてそれぞれの学校課題の解決に精力的に取り組む、また、現職教員とともに学び、確かな実践力、省察力を育んだ大学院生が本県若手教員として活躍してくれることを切望しております。

教職大学院が単なる研修の場にとどまらず、教員同士のネットワークを形成する場となり、県及び市町村教育委員会と連携しながら、本県教育を理論・実践両面において牽引していく拠点となることを期待しています。



青森県教育委員会
教育長 中村 充



1. 県総合学校教育センター
2. 県総合社会教育センター
3. 県立梵珠少年自然の家
4. 弘前市教育センター

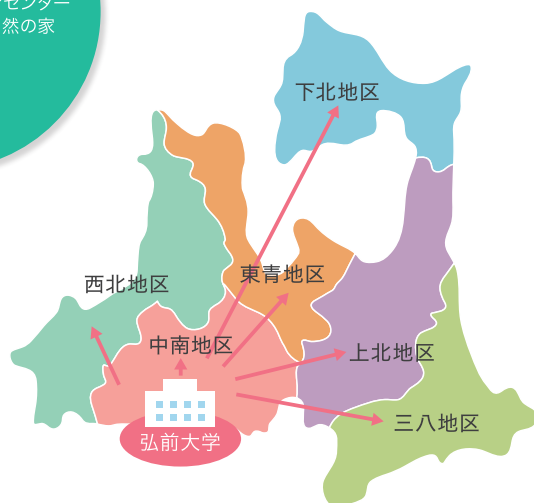
プロフェッショナルチームを拓く協働的な運営体制



教職大学院の教育力を地域へ還元する連携協働システム

県教育委員会との連携・協働により、教職生活全体を通じた職能成長の実現

- 青森県の未来をつくる子どもたちを支える教員の資質・能力の持続可能な向上
- 教職大学院の教育力を現職教員の研修を通して各地域へ還元



Q1 今までの大学院修士課程とどこが違うの？

A1 学校・教育関連施設での実習を主として、学校課題や教育課題に対応できる実践力を身に付けることを目指しています。

Q3 教職大学院の学習環境はどのようなになっているの？

A3 ICT環境が整備された大学院生の共同のスペースがあり、専用のPC、机などが貸与されます。

Q5 研究課題に教科指導を設定した場合、自分の希望した教科科目、校種で研究課題に取り組めるの？

A5 教科科目については、専任教員16名のほかに38名の兼任教員がおり、全教科対応できます。校種についても、ミスマッチが生じないよう調整を図ることにしています。

Q2 修士論文は書くの？

A2 修士論文は書きません。2年次の2月頃、各自の研究課題に基づき「教育実践研究発表会」で報告し、その内容を学習成果報告書にまとめます。

Q4 実習以外では、週何時間(1時限90分1コマ)くらい授業があるの？

A4 選択科目数によって違いがありますが、前後期平均すると、現職教員学生は1年次12時限、2年次2時限程度、学部卒学生は1年次10時限、2年次5時限程度です。

Q6 奨学金制度について教えて？

A6 日本学生支援機構や各種団体による貸与型の奨学金制度があります。また、一定の条件を満たした学部新卒学生及び現職教員学生を対象とした、給付型の奨学金制度があります。詳しくは、教育学部総務グループ教務担当に確認してください。

研究科長メッセージ

教員養成のさらなる高みへ

弘前大学大学院教育学研究科は、学校現場や地域のニーズを敏感に捉え、それぞれが抱える教育課題への的確な対応ができる教員の養成を行うために、専門職大学院である教職大学院(教職実践専攻)を開設します。

教育学部・教育学研究科では、自ら課題を設定し課題解決を目指していく自律的発展力と、子ども・保護者・地域・教員・教育行政など様々な人々との関係性の中で教育活動を展開する、協働性をもった教員の育成を目指してきました。教職大学院では、これらの基本理念を継承しながら教員養成のさらなる高みを目指し、学校現場のニーズや複雑化する教育課題の解決に即応できる教育理論と実践的指導力を併せもった教員の養成を目指します。

このため教職大学院の基本構想の段階から、青森県教育委員会や弘前市内の諸学校に協力を仰ぎ、このたびの教員組織体制やカリキュラムの編成を実現しました。学校現場や教育行政経験豊富な実務家教員と学校教育に造詣が深い研究者教員、合せて16名の専任教員を筆頭に、教育学部のみならず弘前大学の各研究科・研究所より38名の兼任教員が協力して手厚い指導を行います。また、本教職大学院では様々なニーズに対応するため、

学部卒学生を対象とした「教育実践開発コース」と現職中堅教員を対象とした「ミドルリーダー養成コース」の2つのコースを設置し、それぞれ特色ある授業プログラムを用意しております。いずれのコースにおいても、全ての授業を原則、講義形式ではなく演習形式とし、実務家ならびに研究者専任教員、そして兼任教員のチームティーチングによるアクティブラーニングを取り入れた課題解決型授業を展開します。一方実習の授業は、2年間を通じて皆さんそれぞれのニーズに対応したプログラムを用意しております。この実習は、教育実践研究科目により随時省察活動を行うこととしており、常に理論と実践との往還・融合を意識した中で教育課題の追究・解決・検証を行うこととしております。

名峰岩木山の麓に位置する弘前大学教職大学院で、皆様のご入学を心よりお待ちしております。



弘前大学大学院教育学研究科
研究科長 戸塚 学